

(案)
研究集会

「箱根山噴火から 10 年-水蒸気噴火の前兆把握と防災対応の到達点-」

趣旨：2015年に箱根山が水蒸気噴火を起こしてから10年となります。この10年間で、水蒸気噴火を起こしやすい火山の内部構造の理解が進んだほか、地震研究へのDASや機械学習などの新しい技術の導入、火山ガスの連続モニタリングなどが図られ、困難とされてきた水蒸気噴火の予知に向けた研究が大きく前進しました。一方、噴火予知の困難を前提として、一般市民に火山活動の現状を伝えるためのコミュニケーションツールであるVUI (Volcano Unrest Index)の研究も進められてきました。行政的には気象庁の噴火警報に対応した防災計画が各地で立案されてきたものの、警報発表に至らない火山活動の高まりへの対応が課題となっています。この研究集会では、最近の水蒸気噴火に関する火山学的研究を概観するとともに、最近の焼岳火山の活動と地元自治体の対応事例などを参考に、不確実性の高い火山現象の把握と、情報発信、防災対応のありかたについて、火山学と社会科学の双方の視点から議論します。

対象：火山噴火に関わる理学・社会科学など各分野の研究者、自治体の防災担当者など

日程：2025年1月14日(火) 13:00-17:15, 1月15日(水) 9:00-16:00

(時刻は今後多少の変更の可能性あり)

セッション1 (14日 13:00-15:30): 地質学的研究による熱水系構造の解明

セッション2 (14日 15:45-17:15): 地球化学と測地学的な観測でとらえる流体移動

セッション3 (15日 9:00-11:00): 最新の火山性地震観測・解析技術

セッション4 (15日 11:00-12:00): 多様な観測データに基づく火山活動の定量化と情報発信

セッション5 (15日 13:15-16:00): 火山防災対応における情報の活用

会場：神奈川県温泉地学研究所 2階会議室 (神奈川県小田原市入生田 586)

オンライン併用

会場の定員に限られるため、登壇者以外の会場参加は30名を上限とします。

主催：神奈川県温泉地学研究所

後援(予定)：東京科学大学総合研究院多元レジリエンス研究センター、東京大学地震研究所、名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター

参加申し込み方法：神奈川県電子申請システム「e-kanagawa」より申し込み

https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/140007-u/offer/offerDetail_initDisplay?tempSeq=85416